

一〇一三年七月一四日

しばし待つ田植え機亀の横断中  
雨空に月の鉢出づ京の辻  
餌蜜のなかなか減らぬ二人かな

一〇一三年七月一三日

炎暑の被災現場の救助隊  
借りし本抱えて宿る夕立かな  
夏空や先の先まで青信号  
蓮広葉ひるがへるたび池搖る

一〇一三年七月一二日

夏空に櫓の鰐の睨み合ひ  
笛飾り低きに結ぶ四十肩  
青信号片蔭で待つ交差点

一〇一三年七月一〇日

合掌の双手を解きて藪蚊打つ  
土用波叩ひて進む漁船かな  
瓢の笛優しく吹けば鳴りにけり

千鶴 千鶴 もとこ むべ  
もとこ むべ

一〇一三年七月九日

木下闇苔まみれなる石仏 ぼんこ  
遠花火愛づる二階の物干し場 智恵子  
邸涼し読みし逸翁語録なほ うつぎ

一〇一三年七月八日

楊梅を含みし頬のかた笑窪 素秀  
禰宜の妻ようお参りと笑み涼し 小袖

毎日句会みのる選・一〇一三年七月一六日

素秀 小袖 ぼんこ  
智恵子 うつぎ